

一般社団法人
産前産後ファミリーケア協会

日本の産前産後ケアを変える。
社会全体で子育てする世の中へ。

change society

Changing Japan's Postpartum Care Industry
To the world where the whole society raises children.

message

日本の象徴的な「子育て環境」の改善と変革のために。

産後多くの家庭が体験する、日本の特徴的な「子育て環境」。

ママは出産が終わり自宅に戻ると「あとはがんばってね」と急に放り出されたような感覚で、赤ちゃんとの時間は幸せでも、社会から切り離されたような孤独感に苛まれます。

初めてのことばかりなのに誰にも相談できず、ひたすら自分で解決策を模索する日々。外出先では周囲に迷惑をかけないように必死で、いつしか「すみません」が口癖。世界一育休の保証が長い国なのに、世界的に見て低い位置にある男性の育休取得率（※フランス：100%・スウェーデン：88.5%・日本：13.9%）。

子どもの体調が悪くても、保育園・学校行事があっても、ほとんどのパパが仕事を休めず、いつもママが仕事を休む。パパも休みたいくでもなぜか休みづらい職場環境。夜しか遊べないパパが帰ってきて、ご飯やお風呂、歯磨きを嫌がる子どもと向き合っているのはいつもママ。

子育てはいったい誰が誰のためにするのでしょうか。日本の子育て環境は理想と言えるでしょうか。私達は日本の子育て環境の改善と変革、普及活動に真剣に取り組んでいます。



mission

私たちは、社会全体で子育てを楽しむ文化をつくります。

世界的にみても、日本の女性の家事育児負担は大きく、睡眠時間も短いとされています。また、妊娠子育て期と重なる30代で、女性労働率は6割まで低下します。

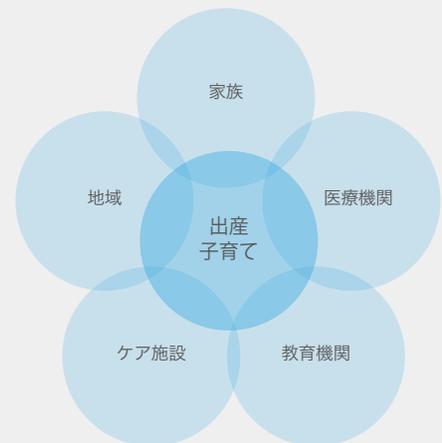
少子化が深刻化していること、子どもを持つと自己犠牲感をもってしまふ女性が多いのはもはや当たり前と言えるでしょう。それでもまだ、ママたちは「子どものために」と我慢をし、「私はうまくできていない」と自分を責めています。

また、「多様性」と叫ばれる昨今ですが、例えば子どもに何か疾患や障がいがあったとき、相談できる場所やサポート体制は地域格差が大きく万全とは言えず、十分なサポートを受けられなかったり、保育園にいきたくてもいけないケースも多発しその負担は家族に重くのしかかります。

子どもが小さい頃から、お友達にメガネをかけた子がいたらそれが「普通」になるように、小さい頃から車椅子に乗る子や気管切開をしている子、文字を読むのが難しい子、など、様々な特性を持ったお友達とともに生活することで、互いに補い合うのが「普通」になります。これが本当のインクルーシブな社会だと思うのです。

優しさ溢れる温かい世界、そして子どもを産みたい・育てたいと思う世界を実現するには、やはり子育て文化の抜本的な改革が必要不可欠だと確信しています。命をつなぐ、最低限の暮らしがなんとか成り立つための支援だけではなく「妊娠出産子育てを楽しむ」ための支援まで視座を引き上げていくことが、これからの日本に必要なってくる視点だと思っています。そのためには病院、行政、地域、教育機関、企業、民間のサポートチームがノンストップで子育てを支援する体制構築が必要です。

そのために私たちは、あらゆる普及活動を通し、社会全体で子育てを楽しめる文化を作る活動をしています。



action

私たちの普及活動



両親学級の開催

産前産後の知識をママだけではなくパパにも知っていただくため、医療機関、教育機関、行政機関にて両親学級を開催しています。



産前産後ケア普及活動

産院から地域まで、産前産後を切れ目なくケアすることは投資であり価値であることを社会認識とし誰もがケアを受けられる日本にすべく貢献します。ケア提供者も自己犠牲なく活動できるようサービス提供者へのサポートが得られるよう訴えていきます。



講演活動

教育施設や企業、保育園等さまざまな場所で講演いたします。子どもを産み育てる可能性のある女性の生き方や、ワークライフインテグレーション、産後パートナーシップ、子育てのイライラ等、幅広いテーマをご用意しています。



勉強会・情報交換会

産前産後ケア発展のための勉強会を開催。それぞれうまくいっていることや苦慮していること、ニーズ等、事例検討会や意見交換会を通じて業界全体を盛り上げていきます。



子育てイベント

子育て中のファミリーに楽しみや安心、情報を提供するイベントを開催します。



学生向け命の授業

この先自分が親になる可能性とそれを視野に入れたライフデザインをお伝えします。様々なロールモデルによる事例を通し、親になる人生の世界の広がりをお見せします。

staff

協会理事のご紹介



代表理事 **結城 孝**

YUKI TAKASHI

1984年10月30日生まれ。宮城県出身。普通高校卒業後、地元企業と住宅メーカー、そして金融業界で15年活躍し2020年コロナ禍にコンサルティング会社を創業。以来続々とグループ会社を創業し成長させている。医療分野へのコンサルティングを得意分野とし、数々の医療法人や医療機器メーカーとの提携や顧問、理事としてサポート。「一家に一人一人に一人、専門家を」この構想を掲げ日々挑戦する日々を送る。

<学位・資格>
ウェールズ大学トリニティセントデイビット MBAプログラムPGD
P・Fドロッカー講座修了
ファイナンシャルプランニング技能士2級
トータル・ライフ・コンサルタント:TLC(生命保険協会認定FP)
事業承継マスター®

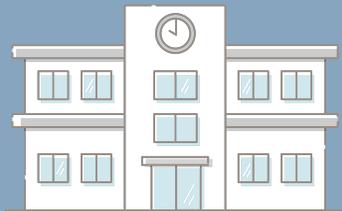
理事 **佐藤 利幸**

SATO TOSHIYUKI

1981年6月27日生まれ栃木県小山市出身。仙台の大学で建築学科を卒業後、大手住宅メーカーにて10年間一戸建てセールス、その後、大手生命保険会社で6年間、生命保険セールスでトップセールスマンとして土日も忙しい日々を送る。ある日突然、妻が切迫早産の長期入院により2歳児との二人暮らしが始まる。親に頼れない子育て環境でどうやってビジネスでも成功しプライベートも充実させたのか?『ママに喜ばれるパパの子育て教科書』セミナーは人気を博し多くのパパから評価を受けている。6歳、4歳の女兒のパパ。蒲町子ども園PTA会長を務めている。

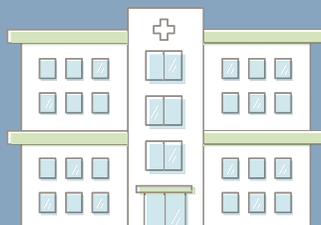
<保有資格>
・ブレインアナリスト
・健康経営ゲーム公認ファシリテーター
・ファイナンシャルプランニング技能士2級
・トータル・ライフ・コンサルタント:TLC(生命保険協会認定FP)

for public facility
学校・医療機関・支援施設様へ



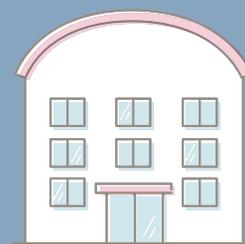
学校・教育機関様へ

生徒や先生方、保母様向けに講演活動をお引き受け致します。子どもを持つ人生や、子育てしながら仕事ができることを、データや実体験を元にお伝えします。特に生徒様にとって、将来子どもを育てる可能性がある世界を自分ごととして捉え、親だけでなく様々な大人の生き方のロールモデルを知ることが、子どもたちの世界や人生選択の可能性を広げることに繋がります。



医療機関様へ

産前産後ケアを導入したいけれど、業務量の多さや経験不足によって実現が難しいというお声をよく頂きます。私たちは以下のお手伝いが可能です。スタッフ派遣による産前産後ケアの実施／両親学級の開催／看護師、助産師等への両親学級開催指導とテキストの提供／看護師、助産師、保健師、薬剤師、美容師、セラピスト等へのリラクゼーションを用いた産前産後ケア指導



支援施設様へ

産前産後ファミリーケア協会では、業界全体の発展のために、情報交換会や勉強会を開催しています。産前産後ケアや、子育て支援を根付かせていくために、事例検討や最新情報のシェアを通してサービスの安全性や質の向上に共に取り組みます。また、様々なサービス提供者がいることを知り、時に紹介し合う事でお客様への利益に繋がります。

corporation
会社概要

商号	一般社団法人 産前産後ファミリーケア協会
本社所在地	宮城県仙台市青葉区木町通2-3-28 YGHビル
事業内容	産前産後ケア普及活動、講演活動、子育てケアスタッフの育成、子育てイベント運営
設立	2022年12月
代表者	代表理事 結城 孝 / 理事 佐藤 利幸 / 事務局 茅野 翼 / 顧問 三浦 利之 (医療法人 あお葉)
グループ会社	株式会社ピースコネクト / 一般社団法人ヘルスマネジメントコネクト / 株式会社結城事務所 株式会社フィナンシャルマネジメントコネクト / 株式会社レジデンスコネクト



<https://yourfamilycare.net>